

タイル画 小さな職人たち 21点が新たに加わり、95点を数えることに。

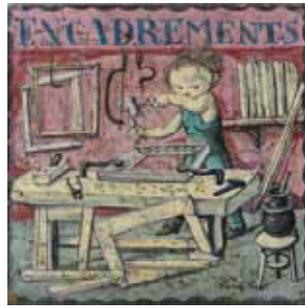
フジタが自身のアトリエの壁を飾るために制作したもので、タイルを模してつくられました。これらについてフジタは、「アトリエの壁には二百何枚かのこの小品を張り付けた」と語っています。本展では「小さな職人たち」シリーズがアトリエ壁面を飾る様子をパネルで紹介しています。



監視員

1958年 油彩/厚紙(ファイバーボードに貼付)
15.0 × 15.0cm

(c)ADAGP, Paris&SPDA, Tokyo, 2011



額縁職人

1958年 油彩/厚紙(ファイバーボードに貼付)
15.0 × 14.7cm

(c)ADAGP, Paris&SPDA, Tokyo, 2011

晩年の裸婦像(春)と対になる作品(秋)

エコール・ド・パリの時代には、「裸婦の画家」として名声を博したフジタですが、戦後になると裸婦像を描くことが少なくなります。1953年に制作された(春)と(秋)、それぞれの作品の背景には、フランスの透き通った青空と、豊穡のシンボルである葡萄の蔓が描き込まれています。戦前の裸婦像に比べ、これらの作品では輪郭線や色彩はより一層、自由闊達に表現されています。



春

1953年頃 油彩/カンヴァス
61.3 × 38cm

(c)ADAGP, Paris&SPDA, Tokyo, 2011



秋

1953年頃 油彩/カンヴァス
61.3 × 38cm

(c)ADAGP, Paris&SPDA, Tokyo, 2011

「レオナール・フジタ 私のパリ、私のアトリエ」

会期:2011年3月19日(土)~2012年1月15日(日)(会期中無休) 開館時間:9:00-17:00

料金:大人/1800円 HP:<http://www.polamuseum.or.jp> TEL:0460-84-2111 会場:ポーラ美術館

フジタ展
イベント

「フジタの線で描こう！」

【日 時】10月8日(土) 13:00~16:00 【定 員】20名 【対 象】高校生以上

【参加方法】往復はがきまたはEメールで参加希望者全員の氏名(1通で2名まで) 代表者の郵便番号、住所をご連絡ください。

Eメールの場合: event@polamuseum.or.jp

「レオナール・フジタと土門拳」

【日 時】11月12日(土) 14:00~15:30 【講 師】内呂 博之 【定 員】100名 【参加方法】予約不要

ポーラ美術館・報道資料

レオナール・フジタ

Foujita : mon Paris, mon atelier

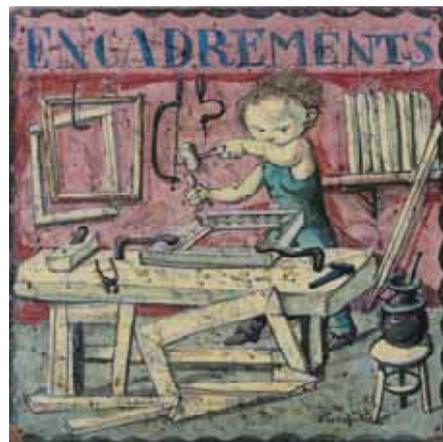
私のパリ、私のアトリエ

2011年3月19日(土) - 2012年1月15日(日)

新収蔵第2弾！ レオナール・フジタ作品 62点を追加し、172点に！
ポーラ美術館で 開催中の「レオナール・フジタ」展で初公開！



(c)ADAGP, Paris&SPDA, Tokyo, 2011



(c)ADAGP, Paris&SPDA, Tokyo, 2011



(c)ADAGP, Paris&SPDA, Tokyo, 2011

【報道に関するお問い合わせは】 ポーラ美術館 広報事務局 担当:増田、小椋、三井 Tel 03-3575-9823 / Fax 03-3574-0316
ポーラ美術館 学芸部広報担当: 比良田(ひらた) Tel 0460 - 84 - 2111/ Fax 0460 - 84 - 3108

新収蔵第2弾！レオナルド・フジタ作品62点を追加し、172点に！ ポーラ美術館で開催中の「レオナルド・フジタ」展で初公開！

ポーラ美術館(箱根・仙石原)は、2011年8月、レオナルド・フジタ作品62点(油彩画61点、水彩画1点)を新たなコレクションとして加えることとなりました。2011年2月のフジタ作品44点に続き、フジタ作品の新収蔵はポーラ美術館として2度目となります。既に収蔵しておりましたフジタ作品110点とあわせ計172点(油彩画160点、水彩画2点、挿絵本6点、版画集1点、書籍2点、立体物1点)の日本最大のフジタ・コレクションを有することとなります。現在開催中の「レオナルド・フジタ 私のパリ、私のアトリエ」展にて9月6日(火)から初公開する新収蔵品62点についてご紹介いたします。



新収蔵
作品の

みどころ

1. フジタが「快心の作」と記した(巴里城門)をはじめ、初期作品3点を新収蔵。
2. 新発見！ 小さな職人たち シリーズの原型と思われる世界初公開の作品群37点。
3. 小さな職人たち シリーズ21点を更に収蔵。世界最多の95点を数えることに。
4. 晩年の裸婦像(春)と対になる作品(秋)。

みどころ

1 (巴里城門)をはじめとした初期作品3点

1913年に渡仏し1919年にサロン・ドートヌヴで入賞するまでの間、「素晴らしき乳白色」を自らの表現の礎とされる時期に制作された作品3点。後に「これが最初の自分の画だった」と回想する(巴里城門)をはじめとし、2006年に開催された「藤田嗣治」展(東京国立近代美術館ほか)に出品された初期の重要作(パリの要塞)と(礼拝)も収蔵。



(c)ADAGP, Paris&SPDA, Tokyo, 2011

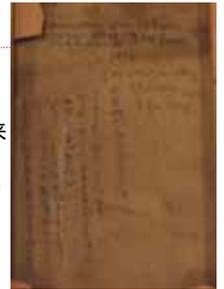
巴里城門(広報用画像)

1914年 油彩/カンヴァス 34.0×41.5cm 画面下に署名および年記

1943年刊行の「藤田嗣治画集」にカラー図版で掲載された、フジタの自信作。夏堀全弘から校正を依頼された伝記原稿に、フジタは「これは自分の最初の画だった」と書き記しています。

裏面のフジタの書込み

同作品がフジタの自信作であったことを裏付けるもの。カンヴァスの裏面に、「巴里城門 千九百十四年作 十三年巴里へ遊学 この作出来て 私の最初快心の作 土手の上にてデングリ返へしを打ちて喜びたる作品 ポアシー シエロンに七法五十文で売り、ドクトル・ドブレーギス氏蒐集品なりしも プエノスにて八百五十円にて買いとりし作品なり」と記しています。



【裏】(部分)



(c)ADAGP, Paris&SPDA, Tokyo, 2011

パリの要塞

1917年 油彩/カンヴァス 63.5×79.5cm
左下に署名および年記

寂寥感の漂うパリ周囲の風景です。貧しい生活を送っていたフジタは、本作品を制作してまもなく、パリの画廊を通して売りに出すことになりましたが、1966年にペトリデス画廊で本作品を偶然に見出し、買い戻すことに成功しました。



(c)ADAGP, Paris&SPDA, Tokyo, 2011

礼拝

1918年頃 グワッシュ/紙 62.0×48.7cm
左下に署名

聖母子像に祈りを捧げる女性の姿を描いています。フジタは1913年に渡仏する以前から、キリスト教に対して強い関心を示していたといわれています。1959年にキリスト教に改宗してからは、宗教主題の作品を数多く残しました。

新発見！世界初公開の作品群 37点 小さな職人たち シリーズの前身？

フジタは1958年から1959年にかけて、タイル状の小さな画面に職人に扮する子どもたちの姿を表現した 小さな職人たち シリーズを制作しました。それと同様にタイル状の板に描かれた今回新発見の作品群37点は、これまで行ってきた調査と照らし合わせると、 小さな職人たち の原型であると推察できます。ただ、職人以外の人物像も描かれており、今後の調査が必要な作品群です。



(c)ADAGP, Paris&SPDA, Tokyo, 2011

パイプとタバコ (広報用画像)
1957年 油彩/厚紙(ファイバーボードに貼付) 11.2×23cm

小さな職人たち との共通点 1 素材

これらの作品は厚紙に描かれ、ファイバーボードに貼り付けられています。これは厚紙を補強するための工夫だったと思われませんが、接着剤の影響で若干反りが生じています。フジタはこの経験を活かし、アトリエの壁面を飾るために制作した 小さな職人たち では、地塗りを施したファイバーボードに直接描くことで反りを防いでいます。



(c)ADAGP, Paris&SPDA, Tokyo, 2011

(c)ADAGP, Paris&SPDA, Tokyo, 2011

小さな職人たち との共通点 2 制作年

小さな職人たち シリーズは1958年秋-1959年春にかけて制作されましたが、今回発見されたタイル画は1956年秋-1958年夏までの約2年のうちに描かれています。これらの作品を描いた後に 小さな職人たち シリーズに取り組んだと考えられます。

- 右 **白いドレスの少女** (広報用写真) 1953年頃 油彩/厚紙(ファイバーボードに貼付)
左 **赤ずきんの少女** (広報用写真) 1956年 油彩/厚紙(ファイバーボードに貼付)



(c)ADAGP, Paris&SPDA, Tokyo, 2011



(c)ADAGP, Paris&SPDA, Tokyo, 2011

右 **目玉焼きをつくる少女**
1956年頃 油彩/厚紙(ファイバーボードに貼付) 15.8×12.5cm

左 **産院**
1958年 油彩/厚紙(ファイバーボードに貼付) 13.9×19.0cm

小さな職人たち との共通点 3 テーマ

パリの職人たちを描いた 小さな職人たち シリーズは、当時のパリで見られた民衆版画等をモデルとしたといわれています。作品数と制作年から鑑み、同シリーズは1日数点のペースで制作されたと考えられますが、そのスピードにもかかわらず作品の描写は緻密で、モデルとなる作品がなければ到底なしえないような仕事量です。今回発見された作品群には、 小さな職人たち と類似する作品が見られます。

コラム フジタのうしろはこの絵？

小さな職人たち シリーズは、フジタが自分のアトリエの壁を飾る作品として制作したのですが、フジタの版画作品《自画像》(1960年)の背景に、今回収蔵する作品3点が描かれています。これらも 小さな職人たち と同様、アトリエの壁に飾られていた可能性があります。

- 左上 **浴室の少女** 1958年 油彩/厚紙(ファイバーボードに貼付) 13.2×11.5cm
右上 **三人の少女** 1958年 油彩/厚紙(ファイバーボードに貼付) 13.3×26.8cm
左下 **管理人** 1958年 油彩/厚紙(ファイバーボードに貼付) 13.2×26.7cm

【参考図版】(右下)

自画像 挿絵本¹がない職業と少ない稼ぎ：1960年 木口木版/紙



(c)ADAGP, Paris&SPDA, Tokyo, 2011



(c)ADAGP, Paris&SPDA, Tokyo, 2011



(c)ADAGP, Paris&SPDA, Tokyo, 2011



(c)ADAGP, Paris&SPDA, Tokyo, 2011